

チベットというところ

私は、「シャングリラ」という論文の第4章でラサのことを書いたが、それはラサが第二のシャングリラにならないかという思いで書いたので、そもそもラサを擁するチベットというところがそもそもどういふところなのかについては、まったく触れなかった。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/syan04.pdf>

チベットは、有史以前の洞窟遺跡「**梅竜達普洞穴遺跡**」も発見されており、古くは、シャンシュン王国、グゲ王国があった。それらの王国は、西部チベットの中心であり、インド、ネパールの貿易拠点として栄えた。さらに、キルギス側からシルクロードのオアシス都市トルファン（吐魯番）にも行けたのである。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/garitiku.pdf>

また、東部チベットも、シルクロードのオアシス都市トルファン（吐魯番）とナクチュを経て繋がっていた。そのナクチュにおいても旧石器時代中期から末期の打製石器が数多く発見されている。ナクチュも古くから栄えたところである。ナクチュで最古の記録に残る政権は象雄政権(シャンシュン王国)であり漢文の資料で羊同と称されるものである。チベット語の史籍ではこの地区は「卓岱」と呼ばれていて「遊牧部落」を意味する。この地域の住民は遊牧民を意味する「卓巴」または北の人を意味する「羌巴」または北の部落を意味する「羌日」と呼ばれていた。

トルファンの近くにあ新疆ウイグル自治区の首都ウルムチからはモンゴルに行く道が古くからあったので、チベットは古くからモンゴルとも繋がっていたのである。

有史以前のことは、以上のことぐらいしか判らないが、ラサがチベット仏教の聖地として発展し始める頃になると歴史がはっきりしてくる。

インドで起こった仏教の中で、北伝仏教とも言われる大乘仏教が、7世紀ごろ、チベット（吐蕃）に伝わりソンツェン＝ガンポ王の保護を受け、チベット固有の土着宗教であるボン教という呪術的な宗教と融合して独自に発達し、チベット仏教となった。吐蕃王朝は衰退したが、チベット仏教はその後モンゴルやネパールにも広がった。

インドの仏教は、401年、鳩摩羅什によってシルクロードを通じて中国に伝えられたが、上に述べたように、シルクロードとは別ルートでチベットに入ってきて中国とは異なるチベット独特のチベット仏教として発展した。そして、チベット仏教はシャングリラに伝えられた。チベットとシャングリラは**茶葉古道**を通じて古くから往来が盛んであったのである。

シャングリラのチベット仏教については、論文「シャングリラ」の第1章に書いた。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/syan01.pdf>

シャングリラから五体投地を行なってラサに向かう信者は後を絶たない。

モンゴルとチベット仏教の繋がりについては、次のとおりである。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/montibetto.pdf>

では、チベットは交通の要所であり、現在、西寧のみならず、インドやカトマンズ、成都、シャングリラ、トルファンと繋がっているので、それを見ておきたい。

まず、西寧である。ラサへの観光客はほとんど西寧から青蔵鉄道に乗ってゆく。

<https://www.youtube.com/watch?v=Lc9M-WsqFvY>

青蔵国道を五体投地をしながらラサに向かう信者。

https://www.youtube.com/watch?v=tIU1_1rkH-Y

ラサからインドやカトマンズへの旅する人も多い。次はラサからカトマンズへ旅した日本人の報告である。引き続き旅行社の作ったホームページも見てください。実に美しい風景が紹介されています。

<http://www.geocities.jp/tgkqy577/tibet2.htm>

http://www.kaze-travel.co.jp/tibet_kiji004.html

次は成都とラサを結ぶ川蔵公路の様子である。これも日本人の旅日記である。シャングリラからもこの川蔵公路を通って行く。

<https://4travel.jp/travelogue/10339659>

ラサからトルファンに行くにはいくつかのルートがあるが、今はラサからトルファンに旅する人はいないようだ。ほとんどの人は飛行機でウルムチまで行きトルファンに向かうか、高速鉄道でトルファンに行く。

なお、シルクロードのオアシス都市トルファンについては、天山山脈の雪解け水との関係が深く、私は「シルクロードと天山」という論文を書いた。その中にトルファンのことが詳しく書かれているので、その論文をご覧いただきたい。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/siruten.pdf>

ラサと結ぶ川蔵公路の拠点都市・成都については、次をご覧ください。

<http://www.kuniomi.gr.jp/geki/iwai/seitosi.pdf>